漫錄

佛蘭西道路の印象

内務省神社局長　佐上信一

一

佛蘭西の道路は他の歐洲大陸及英國等の道路と同じく、其の源を羅馬の道路（ローマン・ロード）に發して居る。「羅馬の道路」は卽ち上古に於て羅馬人の開設した道路を指稱するのであつて、佛蘭西の「羅馬の道路」は羅馬帝國の最も隆盛を極めし「オーガスタス」の時代に、「アグリパロー」と云ふ者を佛蘭西に派遣し、之をして其の事に當らしめたのである。「アグリパロー」は、當時佛蘭西の首都たりし里昂を起點として、六つの大道線を計畫したのである。第一は里昂より南方の馬耳塞に達する路線、第二は里昂より東北方の「ライン」に達する路線、第三は里昂より西北方の「ブーレン」に達する路線、第四は里昂より西方の「ブレスト」に達する路線、第五は里昂より西南方の「ボルドー」に達する路線、第六は里昂より「ナルボンヌ」及び「ツール」を經て馬耳塞と「ボルドウ」とを聯絡する路線卽ち是である。而して里昂より馬耳塞に達する道路は、馬耳塞から「パンチミーユ」を經て、直ちに羅馬の都に通ずるやう實に堂々たる道路を造り上げたのである。此の「羅馬の道路」は、主として軍用の大車輛や軍隊を通行せしむるが爲めに

設けられた道路であつて、其の築造の方法に於て著しい特徴がある。卽ち一般道路にありては地方開發の爲め設くるものなれば　成るべく丘陵を除き平坦ならしむる事を期して居るが、「羅馬の道路」は軍用を主として居るが爲め、一般道路と異り第一が一直線であると云ふこと、第二が其の道路の路線は日當りの良い處を通過して、常に其の乾燥に留意するやうに出來て居るといふこと卽ちこれである。道路を直線的に設けると、第一其の距離を短縮することを得るのみならず、軍隊行進の際其の前方を見透かし得るの利便があるし、又一直線なれば、普通の場合に於て其の築造の費用も低廉であり得るのである。只一直線道路は適當なる勾配を保つことを得ざるの缺點はあるが、此の點のみは我慢するの外はない。

二

佛蘭西に於ける「羅馬の道路」は、「フランク」時代に於て「グルンヒルド」と云ふ者が、更に其の改築を斷行して、大に國內の道路交通の利便を增進したのである。此の時代に於て「グランヒルド」の改築した羅馬の道路は之を「グランヒルド」の道路と呼んで居る。然るに其の後佛蘭西に於ては、首都を里昂から巴里に移したが爲め、里昂中心の道路に代ゆるに、巴里中心の道路を以てしたのであるが、之が爲めに多少新規に開鑿を行つた部分もある。既に巴里の伊太利通りと呼んで居る街路は、卽ち巴里を起點として里昂を經て伊大利に行く第五國道の一部になつて居る。又、元獨逸通り卽ち現今の「シヤンシユール」の通りは、巴里を起點として獨逸に達する國道の一部である。是等は總て巴里が佛蘭西の首都となつた後に設けられたるものであるから例外であるが、鐵道と同じく巴里を中心として隣接國境に走つて居る。現今の佛蘭西國內の道路の主要なるものは、羅馬の時代から今日に到るまで殘存して居るものである、而して是等羅馬人の築造した道路は、十分の基礎工事が行はれた上に、花崗石又は砂石を以て鋪裝せられ、總て國王の所有に屬して居つた。又國王は領內諸侯の土地を通過して道路を開鑿し、又は之を開鑿することを許可するの權限を存して居つたから、佛蘭西の道路は、全く政治上の理由に基く英吉利の迂廻道路とは、大に其の趣を異にして居るのである。

三

現在に於ては佛蘭西の道路の起點は、巴里の「ノートルダム」寺院の所在地であつて、之が里程元標になつて居ること、我國の道路の起點が東京市の日本橋の中央であると同一である。只其の地點の表示物が、彼にありては寺院であり、我に

ありては橋梁であると云ふ差異の存するのみである。佛蘭西の道路は、國道、府縣道、大交通路、郡道、町村道等の各種に分かれて居るが、是等の道路中鋪裝工事を施した總哩數は約四十一萬八千哩に達し、其の大部分はマカダム式の道路である。而して佛蘭西の都會道路は、各々其の地に於て使用さるゝ交通要具の種類に依つて、鋪裝の種類を異にして居る。里昂、馬耳塞等の如く自動車數少くして、主として馬車を利用して居るやうな土地に於ては、其の道路の鋪裝は極めて舊式であつて、殆んど其の全部が花崗石、又は石灰石のブロックを使用し、アスファルト又は木塊等で鋪裝した個所がないので車行は極めて不愉快である。之に反し巴里の如きは、自動車の數が非常に多いので、歐米の他の文明都市と同じく、隨分立派な鋪裝材料を以て道路を鋪裝して居るのである。

四

予が佛蘭西に滯在中、道路交通の取締に關し、問題となつた事項が三つばかりあつた。第一は道路上に於ける物品販賣人の取締である。所謂緣日商人が道路上に於て種々の物品を販賣する。殊に歐洲戰爭以後、戰傷者等が戰爭に於て負傷せるを口實として、道路上に種々の物品を陳列し、故らに通行人に憐愍を乞ひながら、之れを販賣する。而して其の物品は何れも所謂緣日物であつて、品もよくないと同時に、價格も亦極めて低廉なるが爲め、隨分と買手が附く。そこで各地の商業會議所に於ては、此の如く價格の低廉なる粗製濫造品を賣捌くは、佛蘭西商人の名譽を傷くるのみならず、之を買ひ取つた個人に於ても、經濟上非常に不利益を蒙ることになるのである。況んや道路交通の取締上から見るも、緣日商人が道路上を徘徊して、通行人を捉へて之に品物を賣り込むと云ふことは、餘り好ましきことではないといふので、是等の諸點を理由として、道路上に於て物品を販賣することを禁止すべしと云ふ運動が起つて來たのである。第二は道路上に喀痰を吐くことを禁止すべしといふ運動である。歐羅巴では何れの國に於ても、步道に喀痰を吐くことは嚴重に之を禁止して居るが、車道に喀痰を吐くことは餘り取締つては居ない。蓋し彼の地に於ては、道路は卽ち家屋の延長であつて、云はゞ各家共通の廊下のやうなものである。靴ばきで外出して道路上を步行し、靴ばきのまゝで自分の家に歸り、其のまゝ居間や寢室に這入られるやうになつて居るから、道路は專ら清潔を旨としなければならぬが、殊に歐洲戰爭の前には、婦女子は何れも裾（スカート）の長い衣服を著用して居たが爲め、人の步行する步道に喀痰を吐くやうなことがあると、之を靴の裏に附着

せしむるとか、又は時にスカートに之を附着せしめて、家に歸つて、不知不識の間に肺結核媒介の原因となるやうな危險があるので、歩道に咯痰を吐くことは、歐洲戰爭後婦女子の衣服の裾が短かくなつた今日に於ても、嚴重に之を禁止して居るのであるが、更に衞生上の要求は咯痰吐出禁止の範圍を擴張して、車道其の他道路一般に及ぼすを適當とする旨の意見から次第に勢力を得るに至つたのである。第三は道路上に於ける動物虐待の防止運動である。馬匹が自動車の爲めに次第に都市の交通機關より驅逐せらるゝに至らば、道路上に於ける動物虐待防止の問題は、自然的に解決を見ることゝ思ふが、現今に於ては馬匹は尙交通要具として相當の位置を保ちつゝあるのみならず、又犬に荷車を挽かしめつゝあるものも少くないので、道路上に於ける動物虐待防止の問題は、未だ消滅するに至らないのである。而して其の運搬の重量が、是等獸類の能力に相當して居るときは、何等問題はないのであるか、所謂痩馬に重荷と云ふやうに、馬匹に對し不相當な荷物を運搬せしめて、坂路を上下するやうなことがあれば、獨り動物虐待の批難を免かるゝこと能はざるのみならず、更に交通事故を惹起するの虞あるが爲め、是等に對する取締は、相當に喧しい問題となつたので、佛蘭西では各都市に於て、街路の要所に計量器等を設備して、馬車に積載せる貨物の重量を計算し、若し馬匹に對し過大な負擔を荷はしめて居るやうなものがあつたならば、之に對してはそれ〴〵嚴重に處罰を加へ、取締の徹底を期し以て、動物虐待の防止と交通事故發生の豫防とに力を致して居るのである。

五

町名地番の表示制度は、特に佛蘭西の力を用ひて居る所であつて、此の點は佛蘭西の何れの都市にも、よく行き屆いて居るので、巴里の如き大都市に於てさえも、人の住所を搜し出すことは極めて容易な仕事である。街路名なとも、一貫した街路は何處までも同一名稱を用ひ、地番の如き街路の一側に奇數の番號を附し、他の一側には偶數の番號を附して居るから、何町の何番地と云つても、其の搜出に便宜が少くないので、更に進んで地方の小都市にも、此の方法を徹底せしめなければならぬといふことで、政府も之が普及に關し種々工夫を凝して居るのである。

六

佛蘭西に於て特に予輩の興味を惹けるは、巴里市に於けるガソリンの入市稅である。ガソリンの入市稅とは、自動車の如き、ガソリンを使用する車輛が、巴里市内の道路を破壞せ

しめつゝあるが爲め、其の道路の維持修繕の費用に充つるが爲め、ガソリンに對し入市稅を課して居る。巴里市とプローンヌとの郡市の境界には、巴里市の徵稅吏員が出張して居て、手を擧けて巴里に向つて來る自動車其の他の車輛に停止を命じ、其のガソリンを運搬して市內に入り來れるものに對しては、一定率の入市稅を徵收して居る。無論自動車の油筒に注ぎ込まれて、使用中のガソリンに對しては稅金を徵收しない。嘗て予輩が巴里よりベルサイユの宮殿見物に行つた際のことであるが、プローンヌを過ぎサンクールの森に掛つた頃から、自動車は氣息奄々たる有樣で、中々思ふやうに進まぬ。そこで運轉手に「何故に道路のよい割合に自動車の速力が出ないのか」と聞くと、「少しガソリンが切れかゝつて居るからだ」と答へたが、聽てサンクールの町に到着するや、此の地のガソリン店から渴したる牛が水を飮むやうに、其の日に使用すべきガソリンの全量を仕入れて、之を自動車の油筒に詰め込むと同時に、矢よりも早く馳せてベルサイユ町に向つて飛んだのであつた。蓋しガソリンを巴里市中で購入すれば、入市稅がかかつて居るからそれだけ價格が高い。巴里市外で購入すれば、入市稅がかゝつて居ぬから、それだけ價格が安い。しかも自動車の油筒の中に充たされたものに對しては、之を其のまゝ巴里市內へ持つて行つても、入市稅をとらないから市の內外を交通する自動車は、何れも市內でガソリンを買入れないで、皆郊外で之を買入れるといふ實況である。予輩の乘つた自動車も、亦この例に做つたに外ならないのである。此の如くにして巴里市に於けるガソリン入市稅なるものが、實際に公平なる賦課を爲されつゝあるや否やは、頗る疑問としなければならないが、ガソリンの入市稅が、年々相當の金額に上るので、巴里市では、之を悉く市街道路の改良費に充當して居るのである。

七

佛蘭西に於て道路の研究を爲さんとする者の忘るべからざるものは、西部戰場に於ける道路に關する事項である。予輩はサンカンタンを中心として、ソンム川流域の戰場を視察したのであるが、此の地方を貫通する國道は、戰後間もない時であつたにも拘はらず、路面の如きは十分平時の狀態に回復して一點批難すべき所がない程であつた。唯道路並木は砲彈に折斷せられたるものや、毒瓦斯の爲めに枯死したるものや又今日も尙砲彈が樹身にさゝつたまゝ立ち枯れになつて居るもの等も少からず見受けたのである。又並木の樹梢に小屋組の跡の殘つて居るものもあつたが、之は戰爭中獨逸軍が展望

臺として使用したもの、名殘であるといふことであつた。

何故此の如く西部戰場に於ける道路の路面が、意外に速かに修繕せられたかと云ふに、獨逸軍も戰爭中は故意に之が破壞を企てざりしのみならず、寧ろ道路を愛護し且之を利用して居つたので、或る道路の如きは重砲を運搬する必要上、一層路面の基礎を鞏固にするが爲め、道路沿に於ける破壞家屋の煉瓦屑を之に利用した痕跡がある。尙ほ獨逸軍に於て、策戰の必要上新規に道路を築造した所が少くない。其の際にも道路工事に從事する兵士の士氣を鼓舞作興するが爲め、其の工事場附近で、盛んに軍樂を奏せしめたと云ふことで、其の時の實況を撮影した寫眞なども殘つて居る。又佛蘭西軍に於ても同樣戰場に新規道路を築造した事は勿論であつた。但し佛蘭西の此の地方に於ける道路の缺點を云へば、比較的に道路幅員が狹小であることである。然るに幸か不幸か從來亭々として繁茂しつゝありし道路並木が、戰爭のため枯死して仕舞つた個所が多いので、新に並木を植栽するに方りては、之を路端に片寄することゝして、道路幅員を取廣める工事を實行することゝしたのである。

八

道路並木の立派なることは、何と云つても佛蘭西が第一である。如何なる邊鄙の道路と雖も、必ず亭々と繁茂せる立派な並木があつて、それも我國のものと異り、其の梢は何れも仰ぎ見るばかりに高いのである。歐米諸國に於ても、近時道路並木の研究が漸く盛んになつて來つゝあるが、亞米利加に於ける各種の道路を通しての缺點は、何と云つても立派な道路並木のないことである。道路並木は獨り旅行者に便宜を與ふるのみならず、夏日に於て溫熱を納帶する作用を爲すものであるから、鋪裝路面の保持上から云つても、誠に大切なものである。佛蘭西を旅行して立派な道路並木を見た亞米利加人は、「誠に羨望に堪えぬ」と常に嘆聲を發するのであると、佛蘭西の工部省の技師は自慢して居つた。實にや佛蘭西の道路並木は、確かに其の技師の自慢する程の價値ある立派なものである。

九

佛蘭西では石又は鑄鐵よりなれる道路里程標が「キロメートル」毎に設けられて居る。又「半キロメートル」の個所にも、稍小形の里程標が設けられて居る。而して道路の元標は既に述べたるが如く、巴里のノートルダム寺院の所在地にあつて、之を中心として四方八方全國各地に國道は國道、府縣道は府縣道として派出して居るのである。今回の戰爭に依り

佛蘭西はベルサイユ條約に基き、「アルサス」「ローレンヌ」の二州を獨逸から取還したのであるが、其の際佛蘭西政府の最も先きに手を着けたのは何であるかと云ふに、巴里から「アルサス」「ローレンヌ」の首都たるストラースブルヒに至る國道の里程表を建設したことである。卽ち此の二州は最早佛蘭西の領土であると云ふので、巴里から此の地に接續した里程標を建設して、道路の里程は總て巴里から計算することゝなすと共に、ストラースブルヒの町名をも慨ね獨逸流から佛蘭西流に變更したので、此の地に住居せる佛蘭西系のアルサスローレンヌ人は、非常な喜びを感じたと云ふことである。此の如き點にまで、佛蘭西政府が其の意を致して居ると云ふことは、亦興味ある事柄と云はなければならぬ。

一〇

佛蘭西では道路制度は十分完備して居つて、其の法制は獨り歐洲諸國に於てのみならず、亞米利加合衆國にまでも繼受せられた程であるが、今回の戰爭に於て、國を擧けてあらゆるものを戰勝の犧牲に供したるが爲め、巴里其の他各都市の道路の如きも、戰時戰後を通じて非常に荒廢に歸し、且其の維持修繕も亦戰前の如く十分行はれ難いのであるが、佛蘭西政府に於ては極めて之を遺憾とし、對獨關係解決の曙光を見るに及んでや、大いに道路改良熱の勃興を煽り、數年にして戰時戰後に於ける道路荒廢の現狀を、一掃せむことに努力し始めたのである。(完)

元滋賀縣理事官
滋賀縣道路主事　弓削正雄

退官口占

長年不動在微官。時節到來卽挂冠。
無小功還無大過。湖樓歸去水雲寬。

又

奉職縣廳廿九年。偶然機會謝官緣。
無端冥想爲回顧。土木百般現眼前。

こたび退官のゆるしを
受けたりければ

いさゝかのいさをもたてすおほやけの
つとめせし身のはつかしき哉。
めたちたるあやまちもなくつとめしは
人のたすけのあればなりけり。
長々のつとめを今はゆるされて
はなれゆくこそうれしかりけれ。